

鳥取県東部地域の生活圏に関する研究

鳥取大学大学院 学生員 ○鳥住忠可
鳥取大学工学部 正 員 岡田 勲夫

1 はじめに——地域計画等の策定にあたっては、事前に対象とする地域の構造的な特性を的確に把握し、情報化するとともに、これに十分即応した代替案を提示することが基本と考えられる。このような観点から地域構造特性を分析する際には、当該地域を、人口・産業・地理・社会条件等のマクロなレベルから分析する必要があるのはもちろんであるが、同時に地域住民の生活行動様式と地域との関連に着目し、地域構造を地域生態系・生活系としてとらえることも重要であると考えられる。そこで本研究では、鳥取市を中心とする東部圏域をケーススタディとしてとりあげ、その生活圏の構造特性を明らかにすることを試みる。具体的には、昭和52年度に実施したアンケート調査を中心に、これを統計的に多角的な視点から分析する。

2. アンケート調査内容——鳥取県東部圏域は、1市・12町・2村から構成されているが、その中心地的機能をはたしているのは鳥取市であり、鳥取市を中心として鉄道網・道路網は東西および南北にのびている。そこで本研究で実施したアンケート調査では、この南北ルートに着目し、対象地域を河原町・佐治村・智頭町の2町・1村とした。それぞれの町村と鳥取市との位置関係は図-1に示す通りである。さらにアンケート調査 図-1 内容については、その質問項目は大別し、(i)品目別買い物先、(ii)通勤先、(iii)通院先、(iv)レクリエーション・文化活動に出掛ける所の主要4項目と、回答者の年齢・職業・家計費および「自町村を除く地域の中で最も身近に感ずる所」などに関するフェイスシートから成っている。なお、アンケートの回収率は、70~85%と良好であった。



3. 結果の分析

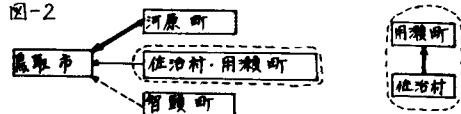
3-1 単純集計に基づく分析——各町村とも買い物先、通院先、レクリエーション・文化活動に出掛ける所は、概ね地元が鳥取市の双方いずれかに集中する2極または1極分布型を示している。表-1は、各町村(地元)と鳥取市のみに着目した場合に、その分布が一方に集中しているかどうか

表-1

項 目	河原町					佐治村					智頭町					鳥取市				
	地	元	元	元	元	地	元	元	元	元	地	元	元	元	元	地	元	元	元	元
1 衣類 反物	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 衣類 紳士服	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 衣類 婦人服	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4 衣類 子供服	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5 衣類 服着下着	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6 衣類 寝具	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7 食料 米	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8 食料 穀類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9 食料 加工食品	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10 食料 肉類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11 食料 魚類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12 食料 電気器具	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13 食料 家具	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14 食料 電器	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15 食料 化粧品	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16 食料 医薬品	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17 食料 金銀器	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18 食料 文房具	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19 食料 おもちゃ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20 食料 生鮮食品	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21 食料 加工食品	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22 食料 菓子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23 食料 贈答品	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24 医療 内科小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25 医療 外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26 医療 産婦人科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27 医療 歯科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28 娯楽 映画鑑賞	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29 娯楽 レクリエーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30 娯楽 スポーツ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31 娯楽 けいこ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32 娯楽 読書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33 娯楽 音楽鑑賞	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34 娯楽 料理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35 娯楽 美容	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36 娯楽 趣味	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

地元と鳥取市のうち小さい方を10とし、○で表わし、大きい方の総和を大きくするほどに濃縮した。
○ 1 ~ 15%
● 15% ~ 25%
● 25% ~

図-2



3-2.クロス集計に基づく分析-----各項目間ごとにクロス集計を行ない、 χ^2 検定によって項目間の独立性の検定を行なった。図3~5はその検定結果を模式的に示したものであるが、これより次のことがいえよう。

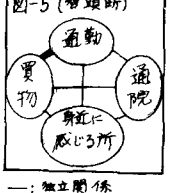
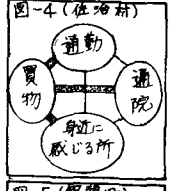
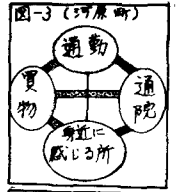
1)河原町と佐治村を例にとると、「買い物先」と「通勤先」との関係および「買い物先」と「身近に感じる所」との関係、さらに「買い物先」と「通院先」との間には、買い物の品目によっては独立とはいえない相関が認められたが、特に食料品・文化品(電気器具)の場合、項目によって独立関係がみられる。さらに「通院先」と「通勤先」、「通院先」と「身近に感じる所」との間の関係は、河原町では非独立、佐治村では独立と判定された。

2)智頭町は、河原町・佐治村とはパターンが少々異なっている。すなわち、「買い物先」と「通勤先」との間には非独立関係が認められたが、その他の項目間の関係は独立であると判定された。

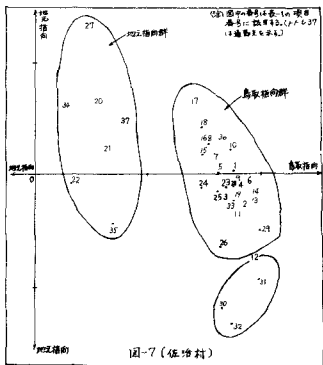
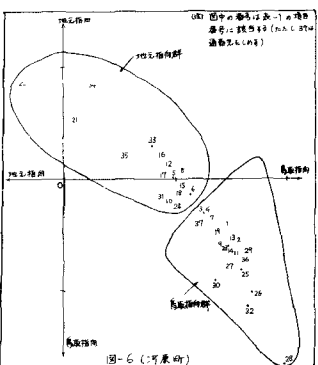
3)3町村ともに共通している点は「身近に感じる所」と「通勤先」との関係が独立であると認められたことである。

3-3.数量化理論Ⅲ類による分析-----ここでは、各町村に対して実施したアンケート調査の質問項目に対する反応パターンが、概ね地元か鳥取市の双方いずれかに集中する2極または1極分布型を示したこと、また、クロス集計によって得られた項目間の独立性の検定をさらにミクロに調べるために、数量化理論Ⅲ類を用いた分析を試みる。すなわち、この場合個体タイプは、アンケート回答者であり、2分法的属性は、「品目別買い物先」、「通勤先」、「通院先」、「レクリエーション文化活動に出掛ける所」、「身近に感じる所」の大分類5項目であって、すべて「鳥取市である」、「鳥取市ではない(わからない)」の2反応形式である。以下、紙面の都合上河原町および佐治村を例にとりて説明する。図6,7は両町村における属性の2次元配置の結果を示したものであるが、これより概ね次のことがいえよう。

1)河原町を例にとった場合、地域住民の生活行動パターンは、図6に示すように「地元指向軸」と「鳥取指向軸」から構成されており、それらの軸によって「地元指向群」と「鳥取指向群」に群分けできた。微視的にみると、地元指向には、食料品・レクリエーション文化活動・日用品等が、鳥取指向には、衣料品・文化品(電気器具は除く)・「身近に感じる所」・「通院先」等が含まれていることがわかる。さらに、河原町の場合、衣料品・文化品・映画観劇・通院といった比較的情報志向性の強い項目が、「身近に感じる所」を支配している(と距離が近い)と考えられる。2)佐治村の場合は、河原町と異なり明確な分類が困難であったが、概ね「地元指向群」と「鳥取指向群」の2つに大別することができた。微視的にみると、地元指向・鳥取指向ともに河原町の場合とほとんど同じ項目を含んでいる。ここで注目すべきことは、佐治村の場合、日用品・身の廻り品といった比較的日常性の高い項目が、「身近に感じる所」を支配している(と距離が近い)ことである。これは、佐治―用瀬といった下位レベルでの地域依存関係が存在しているために、「身近に感じる所」の反応パターンが、用瀬・鳥取の双方に均等に集中したためであると考えられる。



—: 独立関係
 —: 非独立関係
 □: 買物の品目により独立または非独立関係



4. おわりに

以上、本研究の実施により、地域構造特性を地域生態系・生活系といったレベルからとらえることができた。なお、詳細については講演時に説明する。